

## 研究テーマ

子どもたち一人一人が課題を持って追究を深め、  
確かな力をつけていく家庭科学習はどうあったらよいか  
～食の領域に焦点をあてて～

## 研究内容

## 1 公開研究授業

- ・期 日 平成18年11月15日(水)
- ・学校名 小布施町立栗ガ丘小学校
- ・題材名 「家族のためにお弁当を作ろう」
- ・学 年 6年4組(男子12名 女子19名 計31名)
- ・授業者 綿田 由紀子 教諭

## 2 研究の重点

学校目標から導き出された栗ガ丘小学校の全校研究テーマ『学びをつくる子ども』  
「対象(もの・こと・ひと)とかかわる中で、思いや願い、問いが生まれ、実現や解決に向けて、友とやりとりしながら、対象との新たなかかわり(活動・考え)を見つけ深めていく子ども」を受け、家庭科の授業における「食に興味を持ち実習に意欲的に取り組んでくるが、学校で学んだことを家での実践に生かしたり、バランスのとれた食生活を意識したりすることの薄い子どもたち」に「食を通じた生活の振り返りの中から願いや課題を見つけ、その課題を追究することで知識や技能を体得していけるような場の設定及び家庭実践への意欲の持たせ方」に重点をおき、家庭科における「学びをつくる子ども」の姿の具現に向け本研究を推進した。

上記テーマに迫るための3つの視点の決めだし

願いや課題をより明確にする手だてから追究を深める。

繰り返し調理・個別調理により知識・技能の定着を図り、自信ある姿を目指す。

家族や友とかかわる場を設定することで、家庭実践への意欲づけを行う。

## 研究の成果

願いを持たせ、課題を明確にするにかかわって

導入の場面において各自及びペアで本時の課題を再度確認した。F児は「お父さんお母さん(姉)のための栄養たっぷりなお弁当」という願いや学習カードに記入された手順を確認し、終始意欲的に追究し、友へのアドバイスも怠らない深い追究となった。

繰り返し調理・個別調理にかかわって

個別の繰り返し調理の二回目である為、何を、どのよな手順で行ったらよいか明確な見通しの基に確かな技能の向上が見られた。無駄のない、手際の良さが見られた。

家族や友とかかわりについて

家族を意識した味付けやかたさや見た目やレイアウトのお弁当ができあがり、試食場面では「この卵焼き、お父さんにはちょっと甘すぎるかも」「すげえ、カッコイイお弁当だね!!」等が聞かれ、早く持ち帰って家の人に見せたい一心で、ふたをすぐ閉じパンダナで大切に包み込んでしまう子どもたちがほとんどであった。



## 来年度への課題

- ・もう一步踏み込んだ課題、より具体的な課題に絞り込むことで更なる技能の向上を目指す。
- ・繰り返し調理の一回目「ためし調理」をどういう観点から見返し、振り返るかをはっきりさせておくことで、二回目の調理実習に生きてくる。
- ・平成20年全国大会へ向けて同好会との関連を図りたい。

